

Before



上流から下流、
ゆるやかに。

矢作川の支川(※1)でアユ等が多く遡上する籠川。矢作川合流点から5.7kmの間に支障となる落差が12箇所あり、上下流の連続性を改善することが課題でした。既設落差工を自然石を用いてプール状の多段式落差工に改良。土砂移動の多い河川であったことから全断面魚道(※2)として、上下流の連続性を確保することとしました。現在、下流から10箇所目まで魚道の設置が完了し、約4.5kmの区間で魚等の上下流の移動が可能となっています。

※1 本川(流量、長さ、流域の大きさなどがもつとも重要と考えられる川、あるいは最長の川)に合流する川。

※2 川幅の横断方向全体に設置する魚道。



N35度7分37秒 E137度9分29秒
(35.127,137.158)



After

矢作川水系籠川

Yahagigawasuikei KAGOGAWA

【参考・引用文献】

1. 「多自然川づくりポイントブックⅡ 河川改修時の課題と留意点」：多自然川づくり研究会編
（財）リバーフロント整備センター（現（公財）リバーフロント研究所）発行、2008
2. 「多自然川づくりポイントブックⅢ 川の営みを活かした川づくり～河道計画の基本から水際部の設計まで～」：多自然川づくり研究会編
（財）リバーフロント整備センター（現（公財）リバーフロント研究所）発行、2011
3. 「川からはじまる 川から広がる 魅力ある地域づくり」
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課、2017
4. 「かわまちづくり」
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課、2016

この本の地図は、国土地理院の電子地形図に
整備位置を追記して掲載しています。

発行

国土交通省

水管理・国土保全局 河川環境課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3

TEL：03-5253-8111

2018年3月発行